

二〇二二年一月一日(参加者二名)

孫つれて被爆地を訪ふ暮の秋
 このために取り置きし炭秋刀魚焼く
 焼き上がる今年の秋刀魚スリムなる
 千年の大樹の杜に秋暮るる
 疫禍いつまでと溜息秋暮るる
 生涯を同じ地に住み秋の逝く
 夕鐘の筈問遠に秋暮るる
 久に点く隣家の灯し暮の秋
 九十翁より届く句集や暮の秋
 慌たゞしく退院支度暮の秋
 暮れの秋長き土塀に夕日落つ
 秋暮れて灰色と化す湖の面
 秋暮るる卒寿の父も恙なく
 一病の夫と分け合ふ秋刀魚かな
 仏舍利塔いよいよ白し暮の秋
 秋暮るる旅の計画なきままに
 己が膝抱えて縁に暮の秋
 淀川の流れ常しへ秋の逝く
 炊きたての飯と秋刀魚があればよし

せいじ
 うつぎ
 ぼんこ
 もとこ
 智恵子
 はく子
 わかば
 うつぎ
 やよい
 董雨
 みづき
 隆松
 豊実
 もとこ
 はく子
 満天
 素秀
 はく子
 宏虎

父母懐かしみ切炭で秋刀魚焼く
 秋暮るや秘密基地めく石舞台
 大楠の洞供物無く秋暮るる
 秋刀魚煙どつと吐き出す換気扇
 個性あり秋刀魚の骨の残し方
 島影の滲む大琵琶暮の秋
 洗濯物類で確かむ秋の暮
 父の顔忘れたと母秋刀魚食ぶ
 トンネルを出れば金星秋の暮
 もてなしは秋刀魚にしてと帰国の子
 戻りこぬ猫を探して秋の暮
 病院の夕食に食ぶはつ秋刀魚
 田の神の裏は捨て畑秋暮るる
 一万歩には一寸足らず秋の暮
 猫カフェーみな保護猫てふ暮の秋
 蜘蛛の囿の破れ繕はず秋暮るる
 ベンチ朽ち果てし荒れ寺秋暮るる

みづき
 かかし
 たか子
 うつぎ
 こすもす
 隆松
 明日香
 わかば
 よう子
 うつぎ
 素秀
 董雨
 うつぎ
 小袖
 なつき
 明日香
 たか子

WEB句会みのる選・二〇二二年一月一日